

TAC（タック＝営農経済渉外）が家庭菜園を行う際のポイントや注意点などをじっくり分かりやすく解説いたします！

ひと手間で作れる！ジャガイモの花芽かき

春に植え付けたジャガイモは、5月に入ると生長が進み、草丈が伸びて花芽をつけ始めます。この時期の管理が、収量やイモの大きさ・品質を大きく左右します。

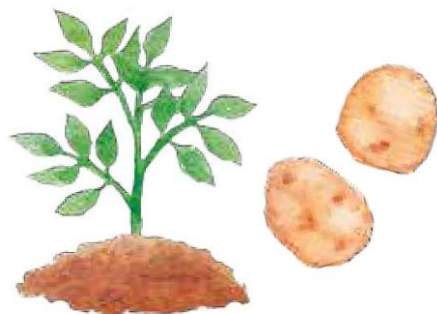
特に大切なのが「花芽かき」です。ジャガイモは花を咲かせると、養分が花や実(果実)に使われ、地下のイモの肥大が抑えられることがあります。すべての品種で必須ではありませんが、大きなイモをしっかりと育てたい場合は、花芽を摘み取ることで養分を効率よくイモに回すことができます。

① 花芽かきのタイミング

花芽かきは、つぼみのはっきり確認できる頃、開花前のやわらかい段階で行うのが適期です。すでに開花してしまった場合でも、早めに取り除けば効果は期待できます。作業は、晴れて株が乾いている日の午前中(朝露が乾いた後～昼前)がおすすめです。この時間帯は病気の感染リスクが低く、株への負担も軽減できます。雨天時や葉が濡れている状態での作業は避けましょう。

② 花芽かきのポイント

花芽は、指で軽くつまんで摘み取ります。無理に引っ張ると茎を傷めたり、傷口から病気が入りやすくなるため、やさしく丁寧に行うことが大切です。株数が多い場合は、ハサミを使用し、こまめに消毒するとより安心です。



あわせて行いたいのが土寄せです。生長に合わせて株元に土を寄せることで、イモの露出を防ぎます。イモは日光に当たると緑化し、食味や品質が低下するため、しっかりと覆うことが重要です。

土寄せは2回程度に分けて行うと効果的です。また、土寄せのタイミングで軽く追肥を施すと、イモの肥大をさらに促すことができます。

そのほか、乾燥が続く場合は適度に水やりを行い、過湿にならないよう注意します。葉の変色や害虫の発生など、日々の観察も欠かさず行いましょう。

ひと手間を丁寧に積み重ねることで、収穫時の満足感が大きく変わります。初夏の収穫を楽しみに、適切な管理を心がけましょう。



お問い合わせ 肥料・資材等のお申し込み

JA足利 営農振興課 ☎0284-22-4433(担当:TAC) 経済課 ☎0284-70-3071